NEC Express5800 シリーズ



# Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard x64 Edition

# インストール補足説明書 for Express5800/120Ba-4

## はじめに

本手順書は、Windows Server 2003 x64 Edition for Express5800/120Ba-4 対応 NEC差分 モジュールを使用して、「Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard x64 Edition 日本語 版」(以降、「Windows Server 2003 x64 Editions」と呼ぶ)をインストールする方法について記述 しています。

Windows Server 2003 x64 Editions をインストールする前に、必ず最後までお読みください。

注意 Windows Server 2003 x64 Edition for Express5800/120Ba-4 対応 NEC差分モジュールは、Express5800/120Ba-4 対応の専用モジュールで す。他の装置ではご使用できません。

### Windows Server 2003 x64 Editions インストール手順概略

Windows Server 2003 x64 Editions のインストール方法概略図を以下に示します。 Windows Server 2003 x64 Editions は既存の 32bit 版からのアップグレードはできません。

必ず新規インストールを実施してください。



### Windows Server 2003 x64 Editions をインストールするための準備

#### インストールに必要なもの

Windows Server 2003 x64 Editions インストールを開始する前に、以下の媒体と手順書 がそろっていることを確認してください。

 Windows Server 2003 x64 Edition for Express5800/120Ba-4 対応 NEC 差分モジュール(以降、「NEC 差分モジュール」と呼ぶ)

『NEC8番街』<u>http://nec8.com</u> [サポート情報] [ダウンロード(Express5800)]を参照し、入手してください。

- Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER (または 1.44MB フォーマットの 3.5 インチフロッピーディスク1枚) 作成方法は"「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成"(本書)を参照してください。
- Microsoft® Windows Server<sup>™</sup> 2003, Standard x64 Edition インストール補足説明書 for Express5800/120Ba-4 (本書)
- Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard x64 Edition 日本語版 (CD-ROM) 別途ご購入が必要です。 (以降、「Windows Server 2003 x64 Edition CD-ROM」と呼ぶ)
- Express5800 シリーズをお買い上げ時に添付されているもの
  - EXPRESSBUILDER CD-ROM
  - ユーザーズガイド (EXPRESSBUILDER CD-ROM の中のマスターコントロールメニューから 「オンラインドキュメント」を参照してください)
  - ブレード収納ユニットユーザーズガイド

#### NEC 差分モジュールのダウンロードについて

「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成する 場合や、「システムのアップデート」を行うときは、あらかじめ以下の手順で Express5800/120Ba-4 対応の NEC 差分モジュールをダウンロードしてください。

- (1) 次の URL の OS 関連のページを参照し、Express5800/120Ba-4 対応の NEC 差分モジュールをダウンロードしてください。
   『NEC8番街』<u>http://nec8.com</u> [サポート情報] [ダウンロード(Express5800)]
- (2) モジュールをダウンロード後、ハードディスク上の任意のフォルダに展開する。(例:C:¥TEMP)

注意 ダウンロード先のフォルダには、空白文字を含むフォルダは 指定できません。

#### 「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成

インストールを始める前に「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるフロッピーディスクが必要です。 以下の手順にしたがって作成してください。

**ヒント** この装置用の<sup>「</sup>Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成済みの場合は再度、作成する 必要はありません。

次の手順で作成します。

- (1) 1.44MB フォーマット済み 3.5 インチの空フロッピーディスクを1枚用意 sする。
- (2) オペレーティングシステムを起動する。
- (3) NEC 差分モジュールをダウンロードする。(「NEC 差分モジュールのダウンロードについて」(本書)参照)
- (4) フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクをセットする。
- (5) 以下のフォルダ配下の全てのファイルをセットしたフロッピーディスクに コピーしてください。

#### <展開先フォルダ名>¥WINNT¥OEMFD¥ W2K3AMD¥FD1

コピー終了後、

「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の 作成は完了です。

作成した<sup>「</sup>Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」は、 ライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

### 注意事項

#### Windows Server 2003 x64 Editions をインストールする前に注意事項をよく読んでください。

インストールを始める前に、ブレード収納ユニットにキーボード・ディスプレイ装置・CD-ROMドライブ・ フロッピーディスクドライブなどが正しい構成で接続されていることを確認してください。 接続されていない場合は、必ず接続してください。

#### SystemGlobe DeploymentManager Liteを使ったセットアップ

Windows Server 2003 x64 EditionsのインストールをSystemGlobe DeploymentManager Lite を使用して、行うことはできません。 ローカルインストールの手順を参照し、インストールしてください。

#### ライセンス認証の手続きについて

Windows Server 2003 x64 Editionsのライセンス認証の手続きを行う際に使用するプロダク トキーは、OSに含まれるプロダクトIDの記載されたCOAラベルと一致させる必要があります。

- 要 インストールしてから 30 日以内にアクティベーションを行ってください。 30 日間を過ぎると、システムがロックされる場合があります。
  - COA ラベルは本体に貼り付けられている場合もあります。

#### ダイナミックディスクへの再インストールについて

ダイナミックディスクにアップグレードしたハードディスクドライブに再インストールする際、OS をインストールするパーティション以外にパーティションが存在し、そのパーティションを残した い場合は、次の点について注意してください。

- OSをインストールするパーティションには、前にOSをインストールしていたパーティションを選択してください。
- OSパーティションのフォーマットについては、「現在のファイルシステムをそのまま使用 (変更なし)」を選択してください。

#### BIOSのアップデート

Windows Server 2003 x64 Editions をインストールするためには、EXPRESSBUILDER CD-ROMを用いて、Windows Server 2003 x64 Editions用のBIOSのアップデートが必要な場合があります。

BIOSのアップデートが必要かどうかは、『NEC8番街』<u>http://nec8.com</u> [サポート情報] [ダウンロード(Express5800)]を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。 また、アップデート手順に関しては、各装置のBIOS ダウンロード時の紹介文、およびダウン ロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。

#### 作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ + アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ	=	4100MB
ページングファイルサイズ(推奨)	=	搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	=	搭載メモリサイズ + 1MB
アプリケーションサイズ	=	任意

- 重要
   上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
  - 搭載メモリサイズが 2GB 以上の場合のダンプファイルサイズの最大は 「2048MB+1MB」です。
  - その他アプリケーションなどをインストールする場合は、
     別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

4100MB + (512MB × 1.5) + 512MB + 1MB + アプリケーションサイズ = 5381MB + アプリケーションサイズ

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページン グファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してく ださい。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てる ことで解決できます。

- (1) 「インストールに必要なサイズ+ページングファイルサイズ」を設定する。
- (2) 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

#### RAIDドライブの作成

SCSI HostRAIDを使用する場合は、インストール前にSCSI Select UtilityにてHostRAIDを Enabledとし、RAIDドライブを作成してください。RAIDドライブの作成方法については、ユーザ ーズガイドのRAIDコンフィグレーションの項を参照してください。オプションのディスクアレイコ ントローラを使用している場合は、ボードに添付されているマニュアルを参照してください。

### 1 Windows Server 2003 x64 Editions のインストール

ここでは、Windows Server 2003 x64 Editions のローカルインストール方法について説明します。

- 1. CD-ROM ドライブに Windows Server 2003 x64 Edition CD-ROM をセットする。
- 2. 電源を ON して CPU ブレードを起動する。
  - ・ ハードディスク上に起動可能な OS がインストール済みの場合は、画面上部 に「Press any key to boot from CD…」が表示されている間に<Enter>キーを 押してください。起動可能な OS が存在しない場合は不要です。
    - Windows Server 2003 x64 Editions 用のBIOSのアップデートが必要な場合は、アップデートを行ってください。BIOSのアップデートが必要かどうかは、 <sup>®</sup>NEC 8 番街。<u>http://nec8.com</u>[サポート情報] [ダウンロード (Express5800)]を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。

ディスプレイ装置の画面に POST(Power On Self-Test)の実行内容が表示されます。 (「NEC」ロゴが表示された場合は<Esc>キーを押してください。) しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

#### Press <F2> to enter SETUP

- <F2>キーを押し、BIOS Setup メニューの「Advanced」「Installed O/S」を「PnP O/S」 に設定する。 設定方法は機種によって異なりますので、詳しくは装置の BIOS ダウンロー ドデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。
- 4. BIOS Setup メニューの「Exit」 「Save Changes & Exit」を選択し、[Yes]を選択してシス テムを再起動させる。
- 5. 画面上部に Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」が表示されている間に<F6>キーを押す

 <F6>キーを押しても、画面上には何の変化もあらわれません。
 USB フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき (フロッ ピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

6. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter. Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s).

以下のメッセージが表示されます。

Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A: \* Press ENTER when ready. 7. Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER を フロッピー ディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSI アダプタのリストが表示されます

- 8. SCSI アダプタリストから以下のいずれかを選択し、<Enter>キーを押す。
  - N8403-015 FibreChannel コントローラを使用している場合 [Emulex LPX000 PCI-Fibre Channel HBA]
  - HostRAID を使用している場合 [Adaptec HOSTRAID driver for Windows XP/2003 x64 Edition]



The driver you provided seems to be older than the Windows default driver. Windows already has a driver that you can use for "Emulex LPX000 PCI-Fibre Channel HBA" Unless the device manufacturer prefer that you use the driver on the floppy disk, you should use the driver in Windows.

9. <Enter>キーを押す。

以降はメッセージにしたがって作業を続けてください。

- 10. システムのアップデートを参照して地域情報レジストリ書き込みファイルの実行とシステムのアップデートを行う。(「2.システムのアップデート」(本書)を参照)
- 11. ドライバのインストールと詳細設定を参照してドライバのインストールと詳細設定をする。 (「3. ドライバのインストールと詳細設定」(本書)を参照)

# 2 管理用リモートデスクトップについて

Windows Server 2003 x64 Editions をご使用の場合に必要な管理用リモートデスクトップの設定について説明します。

- 管理用リモートデスクトップを使用するのに、有償のターミナルサーバークライ アントアクセスライセンスは必要ありません。管理用リモートデスクトップは、最 大2つの同時接続が可能です。
- チェック
   カスタムインストールモデルをご購入の場合は、管理用リモートデスクトップの設定は必要ありません。

次の手順にしたがって設定をします。

管理用リモートデスクトップを使用するためには、administrator にパスワードの 設定が必要です。

- 1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。
- 2. [リモート] タブを選択し、[リモートデスクトップ]項目の[このコンピュータにユーザーが リモートで接続することを許可する] をチェック し、[OK] をクリックする。

# 3 システムのアップデート

Windows Server 2003 x64 Editions のインストール後、必ず以下の手順で地域情報レジストリ 書き込みファイル(JAPAN.REG)の実行と、システムのアップデートを行ってください。 NEC 差分モジュールをダウンロードしていない場合は、「Windows Server 2003 x64 Editions をインストールするための準備」の「NEC 差分モジュールのダウンロード」を参照し、ダ ウンロードしてください。

重要 次の場合も必ずシステムのアップデートをしてください。

- システム構成を変更した場合(内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合。システム構成を変更した後、再起動を促すダイアログボックスが表示される場合は[いいえ]をクリックし、システムをアップデートしてください。)
- 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合
- 1. 管理者権限のあるアカウント(administrator 等)で、システムにログオンする。
- 2. JAPAN.REG を実行する。

書き込み確認のメッセージが表示されるので[はい]を選択する。

 <展開先フォルダ名>¥WINNT¥W2K3AMD¥UPDATE.VBS を実行する。 セットアップメッセージが表示されます。

画面のメッセージにしたがって作業を進めると、[コンピュータの再起動] ダイアログ ボックスが表示されます。

4. [コンピュータの再起動]をクリックしてシステムを再起動させる。

## 4 ドライバのインストールと詳細設定

本装置標準装備の各種ドライバのインストールとセットアップを行います。 ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについてはドライバに添付の説明書 を参照してください。

#### **PROSet**

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。 PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、システムに耐障害性に優れた環境を提供し、装置とスイッチ間のスループットを向上させることができます。 このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする 場合は、以下の手順に従ってください。

1. エクスプローラを起動する。

[標準のスタートメニューモードの手順] スタートメニューから[すべてのプログラム] [アクセサリ] [エクスプローラ]を クリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順] スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプロー ラ]をクリックする。

「<展開先ドライブ名>:¥WINNT¥W2K3AMD¥NS1¥PROSet¥WS03\_32E」ディレクトリ内の「DXSETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード]が起動します。

- 3. [次へ]をクリックする。
- 4. [同意する]をクリックする。
- 5. デフォルトのままで、[次へ]をクリックする。
- [インストール]ボタンをクリックする。
   [InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。
- 7. [閉じる]ボタンをクリックする。
- 8. システムを再起動する。

以上で完了です。

#### ネットワークドライバをインストールする前に

ネットワークドライバをインストールする前に、Windows Server 2003 x64 Editions の修正モ ジュールを適用する必要があります。この修正モジュールを適用せずにネットワークドライバ を起動させると、イベントログの参照ができなくなることがあります。

発生条件 : Gigabit Ethernet Controllerを10Mbpsの回線速度で接続したとき 対象装置 : Express5800/120Ba-4 標準搭載 Gigabit Ethernet およびオプションボードのGigabit Ethernet ボード

修正モジュールの入手は、弊社ファーストコンタクトセンターまでご連絡ください。

ファーストコンタクトセンター : TEL 03-3455-5800 受付時間 9:00~12:00, 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

#### ネットワークドライバ

標準装備の2つのネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、それぞれ転送速度とDuplexモードの設定が必要です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤル アップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

ヒント サービスの追加で[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネット ワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受 信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害 の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、この後の「障害処理 のためのセットアップ」を参照してください。

#### <PROSetがインストールされていない場合>

1. [ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

 スタートメニューから[コントロール パネル] [ネットワーク接続] [ローカル エリア接続](Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または (Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)をクリックする。

[ローカル エリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

(2) [構成]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[設定] [ネットワーク接続]をクリックする。
- (2) [ローカルエリア接続]アイコン(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2) を右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]をクリックする。
- 2. [構成]をクリックする。

[ネットワークアダプタのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

- [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に 設定する。
- 4. [ネットワークアダプタのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

#### <PROSetがインストールされている場合>

1. [ローカル エリア接続のプロパティ]ダイアログボックスを開く。

#### [標準のスタートメニューモードの手順]

 スタートメニューから[コントロールパネル] [ネットワーク接続] [ローカルエリア接続](Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または (Intel(R)PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)を右クリックし、 ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。

[ローカル エリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

(2) [構成]をクリックする。

#### [クラシックスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[設定] [ネットワーク接続]をクリックする。
- (2) [ローカルエリア接続]アイコン(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)を右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]をクリックする。
- 2. [構成]をクリックする。

[Intel PROSet]ダイアログボックスが表示されます。

- [リンク]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。
- 4. [Intel PROSet]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

#### <再インストール>

ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムの再起動をすると自動的にイン ストールされますので、手動でインストールを行う必要はありません。

#### オプションのネットワークのドライバ

Windows Server 2003 x64 Editionsでオプションのネットワークボード(N8403-013)を追加される場合はネットワークドライバの再インストール手順を参考にし、NEC差分モジュールに格納されているドライバをインストールしてください。

#### N8403-013のドライバ [<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥W2K3AMD¥NS1¥PRO1000¥WS03\_32E]

#### アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダ プタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。 また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは複数のアダプタでグループを作り、サーバか ら送信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スループットを向上させるもの です。この機能はAFT機能を含んでいます。

AFT/ALB機能を使用する場合は、以下の手順に従ってセットアップしてください。

- AFT/ALB のセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。
  - Adapter Fault Tolerance(AFT)のグループとして指定するアダプタは、 同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用可能ですが、異なるHUB に接続する場合は、すべて同一 LAN(同一セグメント)上に存在するよう、HUB 同士をカスケード接続にして使用してください。
- 1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
- 2. チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、 [新規チーム]をクリックする。
- 3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
- 4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
- 5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」 のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
- 6. [完了]をクリックする。
- 7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。
- 8. 「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。
- 9. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、ドライバを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。

チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合は、ドライバを選択し、「セカンダリの 設定(S)」をクリックしてください。

両方の設定が終了したら[OK]をクリックして画面を閉じてください。

10. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」を クリックして実行する。

実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。

AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。 アダプタフォルトトレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブ のどちらの接続でも使用できますが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一LAN(同一セ グメント)上に存在する必要があるため、カスケード接続にしてください。アダプティブロードバ ランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブにのみ接続できます。

#### グラフィックスアクセラレータドライバ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、システムのアップデート時に自動的にインストールされます。

#### CD-ROMドライバ

N8460-001/008 外付CD-ROMドライブについてはWindowsをインストール後に、ドライバを インストールする必要があります。詳細な手順はN8460-001/008 外付CD-ROMドライブのユ ーザーズガイドを参照してください。N8460-003 外付CD-ROMドライブについては、ドライバ をインストールする必要はありません。N8405-013ブレード収納ユニット内蔵のCD-ROMにつ いても、ドライバをインストールする必要はありません。

#### フロッピーディスクドライブドライバ

N8405-013ブレード収納ユニットに内蔵のフロッピーディスクドライブを使用する場合は、ブレード収納ユニット添付のCD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

#### N8403-015 FibreChannel コントローラの追加

システムに、FibreChannelコントローラ(N8403-015)を追加接続する場合、OSのプラグアンド プレイ機能が動作しますが、ドライバは自動インストールされません。その場合にはシステム のアップデートを行ってください。システムのアップデートを行うとドライバが自動でインストー ルされます。

### 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップ をしておいてください。

#### メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本体内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

- 要 ・メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様は メモリダンプの設定のみを行ってください。
  - ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動 すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示さ れる場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリ ダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

- スタートメニューから[コントロールパネル]を選択し、[システム]をクリックする。
   [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2. [詳細設定]タブをクリックする。
- 3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。
- 4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK]をクリックする。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合> D:¥MEMORY.DMP

- ビント
   デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
  - 本装置に搭載しているメモリサイズ+1MB 以上(メモリサイズが 2GB を超える場合は、2048MB+1MB以上)の空き容量のあるドライブを指 定してください。
  - メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。
- [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。
   [パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。
- 6. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。
- 7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。

- [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を推奨値以上 に変更し、[設定]をクリックする。
  - 主要・上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
    - 「推奨値」については、「作成するパーティションサイズについて(本書)」を参照してください。
    - メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを 再設定してください。
    - 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押して、正常にダンプ が採取できることの確認を行うことをお勧めします。
- 9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。 メッセージに従って再起動してください。

#### ワトソン博士の設定

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出すると システムを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従っ て設定してください。

- 1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
- [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。
   [Windows ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。
- [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。
   「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

**チェック** ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

ヒント 「クラッシュダンプファイル」は Windows Debugger で読むことができる バイナリファイルです。

- 5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。
  - ダンプシンボルテーブル
  - すべてのスレッドコンテキストをダンプ
  - 既存のログファイルに追加
  - クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

# トラブルシューティング

Express5800 シリーズが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容 にしたがって Express5800 シリーズをチェックしてください。

リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理にしたがってください。 それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してか ら、保守サービス会社に連絡してください。

なお、ここに上げている症状は Windows Server 2003 x64 Editions にて新たに発生するトラブル シューティングです。その他の症状につきましては、お手持ちのユーザーズガイドを参照してください。



Windows Server 2003 x64 Editions のインストールを行うと、以下のような イベントログが登録される場合がある

ソース	:	LoadPerf
種類	:	エラー
イベント ID	:	3009

 説明
 : サービス C:¥WINDOWS¥syswow64¥ipsecprf.ini (C:¥WINDOWS¥syswow64¥ipsecprf.ini) のパフォーマンス カウンタの文字列をインストールできませんでした。
 エラー コードはデータ セクションの最初の DWORD です。

システム運用上、問題ありません。



Windows Server 2003 x64 Editions のインストールを行うと、以下のような イベントログが登録される場合がある

ソース	:	DCOM
種類	:	エラー
イベント ID	:	10016

 説明 : コンピュータ既定 権限の設定では、CLSID {555F3418-D99E-4E51-800A-6E89CFD8B1D7}を もつ COM サーバーアプリケーションに対するローカル アクティブ化アクセス許可をユーザー NT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE SID (S-1-5-19) に 与えることはできません。このセキュリティのアクセス許可は、 コンポーネント サービス管理ツールを使って変更できます。

システム運用上、問題ありません。



Windows Server 2003 x64 Editions のインストールを行うと、以下のような イベントログが登録される場合がある

- ソース : WinMgmt 種類 : 警告
- イベント ID : 5603
- 説明
   プロバイダ Rsop Planning Mode Provider は WMI 名前空間 root¥RSOP に登録されましたが、HostingModel プロパティ が指定されませんでした。このプロバイダは LocalSystem アカウントで実行されます。このアカウントには特権があり、 プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリ ティ違反が起こる可能性があります。プロバイダのセキュリ ティの動作を確認し、プロバイダ登録の HostingModel プロパ ティを、必要な機能が実行可能な最小限の権限を持つアカウ ントに更新してください。

システム運用上、問題ありません。



Windows Server 2003 x64 Editions のインストールを行うと、以下のような イベントログが登録される場合がある

- ソース
   :
   WinMgmt

   種類
   :
   警告

   イベント ID
   :
   63
- 説明 : プロバイダ HiPerfCooker\_v1 は LocalSystem アカウントを 使うために WMI 名前空間 Root¥WMI に登録されました。この アカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく 偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性がありま す。
  - : プロバイダ WMIProv は LocalSystem アカウントを使うために WMI 名前空間 Root¥WMI に登録されました。このアカウントに は特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない 場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

システム運用上、問題ありません。